

ひかりのこ

5月園便り

聖ミカエル幼稚園
2016年4月22日

月主題：気づいて

「ボール遊び」

四月も終盤、年長さんも年中さんもお兄さんお姉さんらしくなってきました。年少さんも例年に比べ、随分早く幼稚園に慣れて、びっくりしています。ゴールデンウィーク明けも、このままでいってこれればいいなあ、とひそかに願っている園長です。

4月の半ば、熊本を中心とする九州地方で、大規模な地震がありました。不安の中にいらっしゃる被災地の方々を覚えて、職員も、子ども達も毎日お祈りをささげて参りました。また、子ども達が毎月曜日、おささげする献金の中から3万円を「日本赤十字社」を通じてお送りしました。少ない額ですが、子ども達の祈りと共に、被災地の方々を支える力になってくれれば、と祈っております。

さて、4月17日（日）、幼稚園の先生たちと私は、札幌市の幼稚園、保育園の先生たちを対象とした、北海道日本ハムファイターズの「K.I.D.S」プログラムに参加してまいりました。元ファイターズの選手の稲葉篤紀さんをはじめとする、球団のコーチや現役選手が指導者となり、私たちに幼児のボール遊びの方法をたくさん教えてくださいました。稲葉さんから、「最近の子ども達の体力低下、という課題改善のために、野球というスポーツに関わっている僕たちとしても、何かできないか、という思いで、このプログラムを立ち上げました。」というプログラム開催にあたってのお話がありました。

年々子ども達の体力測定では、ボール投げの飛距離の平均が短くなっていくそうです。確かに最近キャッチボールをする子ども達の姿をあまり見なくなりました。

私は子ども時代、この幼稚園のすぐ近くに住んでいました。私の兄は美香保中学校野球部の主将で、野球部はとても強く、全道大会出場を果たしたほどです。休みの日になるとその兄に、私はいつもキャッチボールの相手をさせられていました。ひょろひょろで、人一倍運動ができない私に「良子、ゴロはボールの前に体を動かして腰を低くして捕れ！」「フライはボールより後ろに体を移動して、前進して胸の真ん中で捕るんだ！」近くのおさくら公園で、その特訓は日没まで続けました。おかげで、私は高校時代も大学時代もクラス対抗の球技大会では男子に交じってソフトボールに出場することができましたし、それほど運動音痴でもなく

なりました。

昔は公園でも家の前でもキャッチボールやバトミントンをしてよく遊びました。男の子は誰もがキャッチボールをしたことがありました。現代は、公園も道路もよく整備されていますが、その反面、気軽にどこでもボール投げができる環境ではなくなっていると思います。

そう考えると、幼稚園での保育の取り組みに、意識的にボール遊びを入れていくことも考えていかなくては、と思います。ミカエルの先生たちも、稲葉さんや、コーチにいろいろ教えていただいたことを、保育の中で生かそうと考えているようです。保育の中でボール遊びがどのように取り入れられていくか、楽しみです。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「門をたたきなさい。そうすれば開かれる。」

(ルカによる福音書11:9)

幼稚園では子どもたちが月替わりで聖書のことばの暗唱に挑みます。5月は上記のことばです。昔、エルサレムという町は城壁に囲まれており、人々は数カ所を開けられた門を通して出入りしていました。城壁の中は安全でも、ひとたび外に出れば、多くの危険と隣り合わせの空間があります。その安全か否かの境界が「門」なのです。しかし、誰でも自由に通れる門ではなく、特に罪人という肩書きを付けられた人々にとっては、永久に中に入ることを妨げる、開かずの門でした。イエスという人は、人為的に付けられた罪人のレッテルを引きはがし、多くの人を社会に引き戻し、門の中に再び連れ戻す働きをされたのです。固く閉ざされているように見える門でも、決してあきらめることなく、正しいと思うことを祈り求めれば、神さまはそれを聞き届け、叶えて下さるとイエスは語ります。それが「門をたたきなさい」なのです。私利私欲のためではなく、自分を含めた人々の益となることは、正々堂々と願い求めてよい。そのような人間の自由と希望を込めたことばです。

チャブレン 司祭 下澤 昌